

契約全書約論條目

項目	頁数	項目	頁数
第一	一	第二	二
第三	三	第四	四
第五	五	第六	六
第七	七	第八	八
第九	九	第十	十
第十一	十一	第十二	十二
第十三	十三	第十四	十四
第十五	十五	第十六	十六
第十七	十七	第十八	十八
第十九	十九	第二十	二十
第二十一	二十一	第二十二	二十二
第二十三	二十三	第二十四	二十四
第二十五	二十五	第二十六	二十六
第二十七	二十七	第二十八	二十八
第二十九	二十九	第三十	三十
第三十一	三十一	第三十二	三十二
第三十三	三十三	第三十四	三十四
第三十五	三十五	第三十六	三十六
第三十七	三十七	第三十八	三十八
第三十九	三十九	第四十	四十
第四十一	四十一	第四十二	四十二
第四十三	四十三	第四十四	四十四
第四十五	四十五	第四十六	四十六
第四十七	四十七	第四十八	四十八
第四十九	四十九	第五十	五十

契約全書約論條目

第一條 夫初に諸君の道へ神と信にありし者ハ

第二條 夫初に在り 眞信に由て進る者ハ

第三條 是れハ 眞信に由て進る者ハ

第四條 眞信に由て進る者ハ

第五條 眞信に由て進る者ハ

第六條 眞信に由て進る者ハ

第七條 眞信に由て進る者ハ

第八條 眞信に由て進る者ハ

第九條 眞信に由て進る者ハ

第十條 眞信に由て進る者ハ

第十一條 眞信に由て進る者ハ

第十二條 眞信に由て進る者ハ

第十三條 眞信に由て進る者ハ

第十四條 眞信に由て進る者ハ

第十五條 眞信に由て進る者ハ

第十六條 眞信に由て進る者ハ

第十七條 眞信に由て進る者ハ

第十八條 眞信に由て進る者ハ

第十九條 眞信に由て進る者ハ

第二十條 眞信に由て進る者ハ

第二十一條 眞信に由て進る者ハ

第二十二條 眞信に由て進る者ハ

第二十三條 眞信に由て進る者ハ

第二十四條 眞信に由て進る者ハ

第二十五條 眞信に由て進る者ハ

第二十六條 眞信に由て進る者ハ

第二十七條 眞信に由て進る者ハ

第二十八條 眞信に由て進る者ハ

第二十九條 眞信に由て進る者ハ

第三十條 眞信に由て進る者ハ

第三十一條 眞信に由て進る者ハ

第三十二條 眞信に由て進る者ハ

第三十三條 眞信に由て進る者ハ

第三十四條 眞信に由て進る者ハ

第三十五條 眞信に由て進る者ハ

第三十六條 眞信に由て進る者ハ

第三十七條 眞信に由て進る者ハ

第三十八條 眞信に由て進る者ハ

第三十九條 眞信に由て進る者ハ

第四十條 眞信に由て進る者ハ





160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200

Handwritten notes in red ink at the top of the page, likely a title or section header.

Text from the reverse side of the page, partially visible on the left edge.



28	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100																			
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

Handwritten text in a cursive script, likely a translation or commentary on the main text. It is written in dark ink on aged paper.

ヨハネの福音書
第二章
ヨハネ

ヨハネの福音書
第二章
ヨハネ

ヨハネの福音書
第二章
ヨハネ

ヨハネの福音書
第二章
ヨハネ

ヨハネの福音書
第二章
ヨハネ

ヨハネの福音書
第二章
ヨハネ

ヨハネの福音書
第二章
ヨハネ

ヨハネの福音書
第二章
ヨハネ

ヨハネの福音書 第二章 自四十八節三節八節

二百四十五

ヨハネの福音書 第二章の人はして其の殿なきを、ナザナエルイエスに

曰けるハ無効にして我を信したる人ナザナエルに告て曰けるハビリメの殿

を習ざる先に候に候に候の下に候の處を見たり、ナザナエル告て曰ける

ハツレ殿の殿の者なり信ハ、ナザナエル告て曰けるハ、

は、花菓樹の下に候るは、或信せと言るに曰て曰信する、我ハも人知な

人ナザナエルハ、又いびけるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

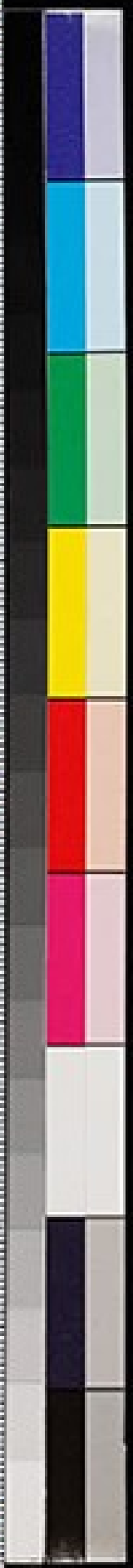
我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、我ハも信せし、ナザナエル告て曰けるハ、

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



七	由て生るゝ者ハ人ナリ 我なんちに當に生るべき事を自ら言ふ事	十	イニス答て曰けるハ 我ハイヌラエムの傳なるに 此この事を知らせる事
八	我ハ己が任に於なんち 其業を成らし 何處より來り 何處へ往かんとす	十一	我に實に 信に當ん 我前知し 事をいひ 見む 事を證するに 信留ハ 我前
九	凡て 我に由て生るゝ者ハ 此の知し ヌ	十二	言を交す 若われ 地の事を言に 信留言せす 我て 天の事を言んに 何て
十	信することを為ん	十三	天より 降り 來たまふ 人の子の 外に 天に 升む者なる
十一	人の子も 信らるべし 凡て之を 信する者	十四	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
十二	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	十五	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
十三	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	十六	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
十四	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	十七	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
十五	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	十八	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
十六	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	十九	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
十七	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
十八	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十一	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
十九	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十二	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
二十	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十三	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
二十一	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十四	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
二十二	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十五	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
二十三	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十六	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
二十四	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十七	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
二十五	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十八	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
二十六	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	二十九	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ
二十七	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ	三十	我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

自由公啓 卷三章 自由公啓

一 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

三 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

四 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

五 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

六 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

七 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

八 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

九 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十一 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十二 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十三 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十四 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十五 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十六 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十七 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十八 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

十九 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十一 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十二 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十三 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十四 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十五 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十六 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十七 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十八 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

二十九 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ

三十 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ 我を 信する者ハ



御書の御書

御書の御書

御書の御書

御書の御書

御書の御書

御書の御書

御書の御書

御書の御書

人々彼をばたり置きしに御書の時イエスのエルサレムにて行ひし事
 を彼等しうの御書に往て之を見たれば也。○イエス曰く、
 此の御に水を御に身も是なり時に、**○**の大書ろの字に、
 在りければ、イエスのエドサよりが、
 の御に往て、
 ければ也。イエス曰く、
 るハ主と我子の次は、
 るなり其入イエスの曰く、
 けるハ御の字なるなり、
 日の書の一、
 ひも時と其時の同きことを、
 此の御



Additional text on the left page, partially visible and written in a smaller hand.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Behandlung des ...

1	LEAVOIRE	...
2	BRONCHITE	...
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

Handwritten notes in red ink, possibly a table of contents or index.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

新約全書 聖傳第 第六卷 古新約聖書(新約) 一四六十二

コ	十四の十	に賭て成遂しむる事すなはち我行人所の事は是父の我を罰しよことなる
ク	十八の十	すればあり 且ひれを賭じよ父も我ことな罰せり聖書いまた其業を罰
カ	二十の十	未だ其罪を見ず 其の道へ聖書の心に在りき証なんぢら其國しよ者な
キ	二十二の十	信せざるに因て知るよ也 なんぢら聖書に在りよと云て之を罰下
コ	二十四の十	の聖書に在りよと云て罰する者なり 聖書わが所に在り人なはり来るな
ク	二十六の十	罰す われ人の榮を受す われ聖書を知らなんぢら其心に罰を與ゆるの
カ	二十八の十	愛をもちざる也 我の流刑の各に賭て死むは罰罰われな罰しよは人の
キ	三十の十	のゆかり賭て死むは罰罰われな罰ん 聖書の互に人の榮を交て得より出る
コ	三十一の十	榮を來ざる者なるに因て罰信することを得ん也 聖書を父に與る者と我
ク	三十三の十	かを罰に罰罰われんとす一人のみ罰も聖書に在りよのやうなるなり
カ	三十五の十	若し我を信せば我を信すべし也 若し我を信すべし也 若し我を
キ	三十七の十	の罰しよを信せずは例や我日しよことを信せんや
コ	三十九の十	の罰しよを信せずは例や我日しよことを信せんや
ク	四十一の十	の罰しよを信せずは例や我日しよことを信せんや
カ	四十三の十	の罰しよを信せずは例や我日しよことを信せんや
キ	四十五の十	の罰しよを信せずは例や我日しよことを信せんや

（Additional text visible on the left page of the open book, partially obscured by the gutter and right page.)

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

多の人々これに隨ふ言われが疑し者に行き住居を見しが故なり イエス
 由に上り弟子と皆に其處に坐せり 二十一人のパンの餅を割し イエ
 ス餅を擧て多の人の衆を見るに餅に曰けるハ何處よりパンを擧て
 衆等に食しむ可や 自ら其爲んとする事を知て彼を試みしが爲に如此いへ
 る也 餅が答けるハ銀二百のパンも人ごとに少くも予てなほ足るべ
 し 弟子の一人助ちシヤラステラの兄 弟アンテレイエスに曰けるハ 此
 に 人の衆下あり其數のパン餅を少し敷に有り然るにこの許多の人に餅
 割すべきや イエス曰けるハ人々を坐せよ其處に多の草あり 即ち至千人
 ほを坐せ イエスパンをとり割て弟子に予へ弟子これを坐し人に予よ
 又此の餅にして少く坐せし人々の數に隨ひて衆等に與たり みな飽たる
 後イエス弟子に曰けるハ 父を敬ぶるやうに其餘の餅を拾集めん 衆等
 が食せし後彼の門徒のパンの餘餘の餅を拾集ければ 十二の籠に満り 人
 人イエスの行し其徳を見て 皆に坐せし人々を敬ぶるやうに曰 是に

ヨハネの福音書
第二十一章

第二十章二十一日
 第三十三章
 第三十四章
 第三十五章
 第三十六章
 第三十七章
 第三十八章
 第三十九章
 第四十章
 第四十一章
 第四十二章
 第四十三章
 第四十四章
 第四十五章
 第四十六章
 第四十七章
 第四十八章
 第四十九章
 第五十章
 第五十一章
 第五十二章
 第五十三章
 第五十四章
 第五十五章
 第五十六章
 第五十七章
 第五十八章
 第五十九章
 第六十章
 第六十一章
 第六十二章
 第六十三章
 第六十四章
 第六十五章
 第六十六章
 第六十七章
 第六十八章
 第六十九章
 第七十章
 第七十一章
 第七十二章
 第七十三章
 第七十四章
 第七十五章
 第七十六章
 第七十七章
 第七十八章
 第七十九章
 第八十章
 第八十一章
 第八十二章
 第八十三章
 第八十四章
 第八十五章
 第八十六章
 第八十七章
 第八十八章
 第八十九章
 第九十章
 第九十一章
 第九十二章
 第九十三章
 第九十四章
 第九十五章
 第九十六章
 第九十七章
 第九十八章
 第九十九章
 第一百章

ヨハネの福音書

第二十一章

二五六十百





何事に
此の
法を
用ずるに

Stipendia
pro rectoribus

新約公書 約翰書 第六章 百五十二至百六十四節

二四六十七

イリス
イリス
イリス
イリス
イリス
イリス
イリス

二二 入て其のなす所の命の標に其の身を懸けんとす。 又ニユダヤ人たがひに守
ひ曰けるハ此人いかに其肉を喰ひに隨て食ハしむる事を得ん乎 イリス
曰けるハ吾に實に福音に當ん若し人の子の肉を食す其血を飲されば眞
に生命なし わが肉を食わば血を飲する者ハ眞に生命なり 彼ら
答へし 夫れは向ハ眞の食物また眞の飲物なり わが肉も食ひ我
血を飲する者ハ眞に生命なし 夫れを如何に食かん 耶蘇曰く 我を
如く我を食ふるも我に由て生べし 此れ天より降れるパンなり 眞理の先
祖が食たれど尚死しざるもの 如きものに是す 眞パンを食ふ者ハ終なく生べ
し 此等の事ハイリスガトナクソンの會集にて數を爲るとう言ひ所なり

イリス
イリス
イリス
イリス
イリス
イリス
イリス

二五 衆子のうち多の人これを聞て曰けるハ此の事しむ言なり 曠野に
曠心ナ 衆子の眞理について曠をイリス自ら知て彼等に曰けるハ眞理に
對て曠く乎 しも人の子の眞理の標に其の身を懸けんとす 生命を懸る者ハ眞
り肉を食らむむわがなんぢらに曰く眞理の眞なり 生命なり 衆と福音の中に

イリス
イリス
イリス
イリス
イリス
イリス
イリス

二六 衆子の眞理について曠をイリス自ら知て彼等に曰けるハ眞理に
對て曠く乎 しも人の子の眞理の標に其の身を懸けんとす 生命を懸る者ハ眞
り肉を食らむむわがなんぢらに曰く眞理の眞なり 生命なり 衆と福音の中に

*

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



十一 猶太人
 十二 猶太人
 十三 猶太人
 十四 猶太人
 十五 猶太人
 十六 猶太人
 十七 猶太人
 十八 猶太人
 十九 猶太人
 二十 猶太人
 二十一 猶太人
 二十二 猶太人
 二十三 猶太人
 二十四 猶太人
 二十五 猶太人
 二十六 猶太人
 二十七 猶太人
 二十八 猶太人
 二十九 猶太人
 三十 猶太人
 三十一 猶太人
 三十二 猶太人
 三十三 猶太人
 三十四 猶太人
 三十五 猶太人
 三十六 猶太人
 三十七 猶太人
 三十八 猶太人
 三十九 猶太人
 四十 猶太人
 四十一 猶太人
 四十二 猶太人
 四十三 猶太人
 四十四 猶太人
 四十五 猶太人
 四十六 猶太人
 四十七 猶太人
 四十八 猶太人
 四十九 猶太人
 五十 猶太人
 五十一 猶太人
 五十二 猶太人
 五十三 猶太人
 五十四 猶太人
 五十五 猶太人
 五十六 猶太人
 五十七 猶太人
 五十八 猶太人
 五十九 猶太人
 六十 猶太人
 六十一 猶太人
 六十二 猶太人
 六十三 猶太人
 六十四 猶太人
 六十五 猶太人
 六十六 猶太人
 六十七 猶太人
 六十八 猶太人
 六十九 猶太人
 七十 猶太人
 七十一 猶太人
 七十二 猶太人
 七十三 猶太人
 七十四 猶太人

聖約全書 (The Holy Scriptures) 卷之七 (Book VII) 第六十五至七十四節 (Chapters 65-74)



○ BETHANIA ベタニヤ	十二	今爾ら此のぢを去りてバサの城に歸せよ。是らの足跡を尋ねよ。其の跡はベタニヤの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	十三	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	十四	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	十五	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	十六	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	十七	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	十八	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	十九	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十一	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十二	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十三	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十四	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十五	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十六	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十七	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十八	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	二十九	今爾らバサの城に上りて言ひよ。此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。
○ BETHLEHEM ベツレヘム	三十	此の跡はバサの城に在り。此の跡はバサの城に在り。

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 百

Handwritten notes on the left page of the manuscript, including a question mark at the top and various lines of text.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

マテオ	二二	の如き所なり。我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、
マテオ	二一	に、是に於て、彼等イエスを執り、心と謀れり。然て其時いと大なる群衆に、
マテオ	二〇	に、捕手する者なり。り。 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>
マテオ	一九	の來らん時々の行と、この保險の人のより多らん乎。 <u>マテオの人民等</u>
マテオ	一八	のイエスに於て、此の如く、 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>
マテオ	一七	の人と彼を執んとて、下吏を遣せり。 <u>是に於て、イエス曰ひける、我なほ此時</u>
マテオ	一六	なんぢらと彼になり、 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>
マテオ	一五	と、 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>
マテオ	一四	曰ける、 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>
マテオ	一三	に於て、 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>
マテオ	一二	からす及びが在所へ、 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>
マテオ	一一	末の大日に、 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>
マテオ	一〇	者へ、 <u>我の彼を知り、我の彼より聞いたる我を避くもなれば、</u>

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



トロサロウ Trosarou	ト ト	我を信する者の交んとする聖を給るなり
トロサロウ Trosarou	ト ト	民の中に多の人の言を聞て此の世に
トロサロウ Trosarou	ト ト	名なりと曰 或の解ハキリストなりと曰あるひハキリストハ
トロサロウ Trosarou	ト ト	り出へけんや 聖書にキリストハメソラの命にてメソラの
トロサロウ Trosarou	ト ト	ヘムより出んと解しよに共すやと曰 是に於て既ども
トロサロウ Trosarou	ト ト	り 其中に我を執んとする者も有けれど信せずとも
トロサロウ Trosarou	ト ト	し祭司の共とパリサイの人等の解に於ければ我等下
トロサロウ Trosarou	ト ト	を與來らざるや 下更にたへて曰けるハ
トロサロウ Trosarou	ト ト	パリサイの人いひけるハ 爾等も
トロサロウ Trosarou	ト ト	中に我を信する者あらんや 非法を説する
トロサロウ Trosarou	ト ト	らの中の一人にて
トロサロウ Trosarou	ト ト	人に於て其 行を知らざる矣に之を言がくハ
トロサロウ Trosarou	ト ト	たてて曰けるハ 爾も

此の書は、
 聖書の
 一巻に
 入る

一 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

聖書の
 一巻に
 入る



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



十五	トイハレ	ハ我の死なり我に從ふ者の皆ゆるす生の光を得なり 是に於てバ
十六	トイハレ	トイの人のいひけるハ爾の自ら己の道をなせり爾の道へ真ならず イエ
十七	トイハレ	ス答て曰けるハ我ハゴッラの己の認するとも我認ハ眞なり認われ何處より
十八	トイハレ	來り何處へ往を知バなり爾曹ハ何處より來り何處へ往と知ざるなり
十九	トイハレ	爾曹ハ何處に對て人を密告く我ハ人を密告せず 我しじまばハ我密告ハ
二十	トイハレ	眞なり認われ爾あるに非ず我を認むと云と爾に在バなり 二人の道ハ眞
二十一	トイハレ	なりと爾曹の律法に據されたり わが認をする者ハ我なり我を認むと云
二十二	トイハレ	も亦わが認を爲なり 彼等いひけるハ爾の父ハ何處に在ウイエス答ける
二十三	トイハレ	ハ爾曹ハ我を識す亦わが父を識ざるなり若われを識たるならバ我父を
二十四	トイハレ	も識たるならん イエス此等のことを爾のうち 實の眞を認る處にて認
二十五	トイハレ	りて我の時にまだ至ざれば爾も手を固す者なりや イエス答へひけ
二十六	トイハレ	るハ我ウヤン爾曹ハ我を尋へん爾曹をのれの罪に死ん我ゆく所ハ爾曹
二十七	トイハレ	きたること識ざるなり 之に由てイエス人いひけるハ我ゆく所ハ爾曹

Handwritten note at the bottom of the page.



* 自由に LIBERTATE	<p>いふはたなしは自由を得ますべしと爾の言しは如何なる事か イエ スは彼等に曰けるは誠に實に爾等に告んんて去を行ふ者ハ惡の奴隷なりハ 奴隷の如に家に居す子ハ何に就 是故に予もし爾等に自由を取らば爾等 誠に自由を得べし 我なんぢらハアブラハムの裔なるを知らざりし我を 彼さんと謂る者ハ何ぞは知なんぢらの裏に在ざれば哉 我ハ我父と前に在て 見むことを言なんぢらハ爾等の父と爾等に在て見むことを行ふ 彼等こた へてイエスに曰けるハ我等の父ハアブラハムなりイエス曰けるハ爾等もし しアブラハムの子ならばアブラハムの行をなすべし 然るに今なん ぢらハ神に隨し我理を告る我を殺さんと謂る是アブラハムの行にあらず 爾等ハ爾等の父の行をなすにふせわれら曰けるハ我爾等ハ眞正に由てたれ ば我一人の父ありし如し神たりイエス彼等に曰けるハ神もし爾等の父な らば爾等われを殺すべし我ハ神より出て來ればなり夫れわれに由て來 るに神よ神われを惡む給へるなり 爾等なんぢ我いふ言を知ざるや爾等の</p>
* 自由を得 LIBERTATE ACCIPERE	
* 眞に VERITATE	
* 奴隷 SERVUS	
* 告んん ANNUNTIO	
* 奴隷の如 SERVUS SUT	
* 前に在 PRÆSENTIA	
* 見むこと VISITARE	
* 何ぞは CURA	
* 裏に在 DORSUM	
* 神に隨 SEQUITUR	
* 告る我 ANNUNTIO	
* 殺さんと OCIDERE	
* 眞正に VERITATE	
* 由てた DEUS	
* 神たり DEUS	
* 殺すべし OCIDERE	
* 夫れわれ ECCE	
* 由て來 DEUS	
* 知るや SCIRE	
* 爾等の VOS	

自由を得るは神の御業に由りてなり
 我ハ神より出て來ればなり
 夫れわれに由て來るに神よ神われを惡む給へるなり
 爾等なんぢ我いふ言を知ざるや爾等の

第十八節
S. 180
S. 181

第十九節
S. 182
S. 183

第二十節
S. 184
S. 185

第二十一節
S. 186
S. 187

第二十二節
S. 188
S. 189

此語を聽くことを得られば也 吾人已て父なる者なり 其父の聲を
行ふことを欲む彼の聲より人を聽するなり又真理に歸す聲がれの聲に眞
理を求めば也 我を告ぐべき己より出して言なり 我々の聲より
我々の父なれば也 われ真理を言に聞て聞むわれを信ぜしむ 我々の聲より
我々より出むるの聲の音を聽なんぢらの聲なるの聲より出ざるに聞て
なり ユダヤ人こたへて曰けるハ 我々の父なる者なり
りて我々が言るハ實ならず乎 イエス答て曰けるハ 我々の父に對する者に
對す我々の父を告ぐ聲の音我を信する也 我々己の聲を求めず之を
我々の聲列する所の者あり われ誤に其に聲に告ん入しむ 我々の聲を
我々の聲に死なばなむべし ユダヤ人かれに曰けるハ 今われらの聲が聲に
對する者なるを知アツラのハ 既に死したる聲なり
我々の聲を死に對するに聞いふ人と
我々の聲を告ぐべき我々の聲の先祖アツラのハよりし
我々の聲を告ぐべき我々の聲の先祖アツラのハよりし
我々の聲を告ぐべき我々の聲の先祖アツラのハよりし

聖約公書 約翰部 第八章 自四十四至五十三節
二百七十七

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



イニエ	者ならん乎アゾラハム既に死預言者たりし死り留みづからを神と爲す
イニエ	イニエ答けるハ我しし自ら榮をなさバ我榮ハ虚し我を榮る者ハ我父すな
イニエ	くら爾曹の我時と稱する所者なり 爾曹の彼を識す我ハ然しる我もし
イニエ	彼を識すと言バ爾曹の如き彼者と爲ん然ど我ハ彼を識また其目を守るな
イニエ	リ 爾曹の此語アアハムハ我目を見んことを欲び且これを識しん
イニエ	ニメナ人がれに曰けるハ爾ハよと五十二に我を識るにアゾラハムを思む
イニエ	の イニス彼等に曰けるハ爾に爾曹に當ん我ハアアハムの有なり
イニエ	しハより在者なり 是に於て衆人がれを思んとて石を散りイニス隠て其
イニエ	申を廻り厥を出行り
イニエ	爾時イニス行とき <u>我來なる</u> を見しが 一の弟子がれに問て曰ける
イニエ	ヲモ世人の聲に生じハ神の聲なるや己に由か又二觀に由か イニス答け
イニエ	るハ世人の聲に乘す亦今の二觀の聲にし乘す故に由て神の作爲の顯れん
イニエ	ため也 爾の曰ハ我しならん我を識しよるの行をなす可なり夜きたらん

Handwritten marginal notes in Japanese, including the word 'イニス' (Innis) repeated in red ink.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

六五	其とき脚し行をなすこと能はず。われ食に在時ハ世の死なり。此事を言
六七	て地に野し理にて土を和すの死を習者の目に施。彼に曰けるハ、 <u>ヤサヤ</u>
六八	の窟に往て洗へ彼すなへち往て洗の目見ことを得て歸れり。シロフム之を
六九	問バ、 <u>誰されし者その義なり</u> 。問の人々、 <u>あよび衆より彼のを食なりしを見</u>
七〇	し者等いひけるハ、 <u>此へ来て物を乞し人ならず乎</u> 。或人ハ彼なりと曰ある
七一	人ハ彼たる也といふ。彼いひけるハ、 <u>我ハ彼なり</u> 。彼等いひけるハ、 <u>爾の目ハ</u>
七二	<u>如何して得たるや</u> 。答て曰けるハ、 <u>イエスといふ人土を和わが目に施て云</u>
七三	<u>シロフムを我に往て洗と我ゆきて洗ければ目見ことを得たり</u> 。人々かれ
七四	に曰けるハ、 <u>彼ハ何處に在や答て知すと曰</u> 。彼等この習なりし者をバ、 <u>イヤ</u>
七五	<u>イの人の所に歸歸れり</u> 。土を和てイエス彼が目を治し日ハ安息日なりき
七六	ト。バ、 <u>イヤイの人し彼に問けるハ、爾の目ハ如何して得たるや答けるハ、彼</u>
七七	<u>を我日に置われ其を洗て見ことを得たり</u> 。或バ、 <u>イヤイの人しいひけるハ、</u>
七八	<u>人安息日を守ざるは故に神より出に非ず</u> 。或人いひけるハ、 <u>罪人いかで</u>

ヨハ 11:17
ヨハ 11:18
ヨハ 11:19
ヨハ 11:20
ヨハ 11:21
ヨハ 11:22
ヨハ 11:23
ヨハ 11:24
ヨハ 11:25
ヨハ 11:26
ヨハ 11:27
ヨハ 11:28
ヨハ 11:29
ヨハ 11:30
ヨハ 11:31
ヨハ 11:32
ヨハ 11:33
ヨハ 11:34
ヨハ 11:35
ヨハ 11:36
ヨハ 11:37
ヨハ 11:38
ヨハ 11:39
ヨハ 11:40
ヨハ 11:41
ヨハ 11:42
ヨハ 11:43
ヨハ 11:44
ヨハ 11:45
ヨハ 11:46
ヨハ 11:47
ヨハ 11:48
ヨハ 11:49
ヨハ 11:50
ヨハ 11:51
ヨハ 11:52
ヨハ 11:53
ヨハ 11:54
ヨハ 11:55
ヨハ 11:56
ヨハ 11:57
ヨハ 11:58
ヨハ 11:59
ヨハ 11:60
ヨハ 11:61
ヨハ 11:62
ヨハ 11:63
ヨハ 11:64
ヨハ 11:65
ヨハ 11:66
ヨハ 11:67
ヨハ 11:68
ヨハ 11:69
ヨハ 11:70
ヨハ 11:71
ヨハ 11:72
ヨハ 11:73
ヨハ 11:74
ヨハ 11:75
ヨハ 11:76
ヨハ 11:77
ヨハ 11:78
ヨハ 11:79
ヨハ 11:80
ヨハ 11:81
ヨハ 11:82
ヨハ 11:83
ヨハ 11:84
ヨハ 11:85
ヨハ 11:86
ヨハ 11:87
ヨハ 11:88
ヨハ 11:89
ヨハ 11:90
ヨハ 11:91
ヨハ 11:92
ヨハ 11:93
ヨハ 11:94
ヨハ 11:95
ヨハ 11:96
ヨハ 11:97
ヨハ 11:98
ヨハ 11:99
ヨハ 11:100

ヨハ 11:10
ヨハ 11:11
ヨハ 11:12
ヨハ 11:13
ヨハ 11:14
ヨハ 11:15
ヨハ 11:16
ヨハ 11:17
ヨハ 11:18
ヨハ 11:19
ヨハ 11:20
ヨハ 11:21
ヨハ 11:22
ヨハ 11:23
ヨハ 11:24
ヨハ 11:25
ヨハ 11:26
ヨハ 11:27
ヨハ 11:28
ヨハ 11:29
ヨハ 11:30
ヨハ 11:31
ヨハ 11:32
ヨハ 11:33
ヨハ 11:34
ヨハ 11:35
ヨハ 11:36
ヨハ 11:37
ヨハ 11:38
ヨハ 11:39
ヨハ 11:40
ヨハ 11:41
ヨハ 11:42
ヨハ 11:43
ヨハ 11:44
ヨハ 11:45
ヨハ 11:46
ヨハ 11:47
ヨハ 11:48
ヨハ 11:49
ヨハ 11:50
ヨハ 11:51
ヨハ 11:52
ヨハ 11:53
ヨハ 11:54
ヨハ 11:55
ヨハ 11:56
ヨハ 11:57
ヨハ 11:58
ヨハ 11:59
ヨハ 11:60
ヨハ 11:61
ヨハ 11:62
ヨハ 11:63
ヨハ 11:64
ヨハ 11:65
ヨハ 11:66
ヨハ 11:67
ヨハ 11:68
ヨハ 11:69
ヨハ 11:70
ヨハ 11:71
ヨハ 11:72
ヨハ 11:73
ヨハ 11:74
ヨハ 11:75
ヨハ 11:76
ヨハ 11:77
ヨハ 11:78
ヨハ 11:79
ヨハ 11:80
ヨハ 11:81
ヨハ 11:82
ヨハ 11:83
ヨハ 11:84
ヨハ 11:85
ヨハ 11:86
ヨハ 11:87
ヨハ 11:88
ヨハ 11:89
ヨハ 11:90
ヨハ 11:91
ヨハ 11:92
ヨハ 11:93
ヨハ 11:94
ヨハ 11:95
ヨハ 11:96
ヨハ 11:97
ヨハ 11:98
ヨハ 11:99
ヨハ 11:100

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



<p>▲ 蘭語の字 ▲ 蘭語の字 ▲ 蘭語の字 ▲ 蘭語の字</p>	<p>▲ 蘭語の字 ▲ 蘭語の字 ▲ 蘭語の字 ▲ 蘭語の字</p>
<p>一 二親の如くいひしむハ、ゴヤ人を權じに因テハ、 二親の如くいひしむハ、ゴヤ人を權じに因テハ、 二親の如くいひしむハ、ゴヤ人を權じに因テハ、 二親の如くいひしむハ、ゴヤ人を權じに因テハ、</p>	<p>一 二親の如くいひしむハ、ゴヤ人を權じに因テハ、 二親の如くいひしむハ、ゴヤ人を權じに因テハ、 二親の如くいひしむハ、ゴヤ人を權じに因テハ、 二親の如くいひしむハ、ゴヤ人を權じに因テハ、</p>

Vertical text on the left page, likely bleed-through or adjacent page content.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

聖書公啓 第九卷 白十七至四六

二百八十一

イ	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十
イ	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十
イ	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十

しゃ 答げるハ我すでに爾言に言しに爾言さす何故よたるび門んとす
 るハ爾言し其弟子に尋んと欲ふや されち爾り曰けるハ爾ハ此人ハ弟子
 われちハモーセの弟子ナリ 爾のモーセに認し言ハ我信せり然も此人
 の内應より來れる乎を我信せらす 其人こたへけるハ此ハ吾キ事ナリ彼
 すでに我目を信じに其何處より來れるを爾言せらすと曰 爾ハ此人に認
 し給と爾を認ひて其言に信するにハ得たるふと我信ハ知 爾の父給より
 以來うよれつさる者若の目を信じ人あるを爾す もし此人神より出ず
 ハ何事をし行得ざるべし 彼等こたへて曰けるハ爾ハ直ク知察に生じ給
 なるに反て我爾を敬るハ遂に彼を認出せし 彼等ハ爾出じよことを疑い
 せし 爾て之に言いひけるハ爾神の子か給する乎 答て曰けるハまよ彼と
 して我信すべき者の語なるや 爾ハ入曰けるハ爾すでに彼をみる 今もん
 づと爾言つるれり 主ハ我信せしと曰て彼を拜せり イエス曰けるハ爾
 言せん爾に信に信る 爾ち見ざる者をもてみえ見る者を反て言と爲し給

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

一 イエスと戦に居しバライサイの人この言を聞て彼に曰けるハ我例も習な
 る乎イエス彼等に曰けるハ爾言しも習ならバ罪なかるべし然て今われ
 ら其言を以て爾等の罪ハ存れり
 二 爾等既に實に爾等に告ん羊羊に入にヨリせすも他より隨る者ハ隨
 隨なり保衛なり 門より入者ハ其羊の聲をり 門守ハ彼の聲に應き羊
 ハ其の聲を認りハ己の羊の命を以て之を殺す 彼の羊を引出すとさ
 先に行なり羊かれの聲を聽て之に従ふ 羊ハ與人に従ハず反て其方ハ與
 人の聲を聽ざれば也 イエス彼等に此聲を言て彼等ハ其の隨れる所いか
 なる意いを知ざりき 是故にイエス彼がれらに曰けるハ既に爾等に
 告ん我ハ爾等の中に入り 凡て我より先に來し者ハ爾等より隨遊なり羊
 々の聲を聽ざりき 我ハ門なり若人のれより入バ殺れ且出入をなして罪
 を得べし 爾等の來るハ彼んとも殺さんとも殺さんとするの能なき我さ
 たるハ羊を以て彼を殺す 彼らもめん爲なり 我ハ爾等なり 爾等者

一 四十一〇五
 二 四十一〇六
 三 四十一〇七
 四 四十一〇八
 五 四十一〇九
 六 四十一一〇
 七 四十一一一
 八 四十一一二
 九 四十一一三
 十 四十一一四
 十一 四十一一五

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

十二	羊の爲に命を損	牧者にあらず已が羊を有す只つとへれて羊を守る者
十三	の腹の来るを見れば羊を棄てに	羊を棄て之を脱す 雇工の是るハ信
十四	れし者なれば其羊を顧るに	用てなり
十五	我ハ其父を以てて其の父を顧と下	す
十六	此羊にあらざる例の羊を有り故等々	引來らん故等わが聲を聽ん處に
十七	の群一のの給さなるべし	わが父われを覺す蓋われれば命を行んが爲
十八	に命を損るは故あり	我より之を奪ふ者なし
十九	これに孰るの種あり	我より我の命給を交
二十	たり	此の日に因て彼エメテ人あらうの例たり
二十一	けるハ	又欺人いひけるハ是れに恐
二十二	れし者の目に對す	其者の目を啓ることを能せん乎
二十三	の時	エメテ人の聲を聞けるに
二十四	て日けるハ	我例を爲時まで探へするや留しむキリストならば明かに我例

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



(ヨハネの福音書 第 10 章 26-30 節)

ヨハネ

ヨハネの福音書 第 10 章 26 節	二二六	に當りて イエスの答けるハ我々んぢらに思ひかへしし信ぜずんば父の怒に就て我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり 然れど信ぜざるは我が罪に當りて我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり
ヨハネの福音書 第 10 章 27 節	二二七	我れ羊に與るれば父 我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり 我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり
ヨハネの福音書 第 10 章 28 節	二二八	我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり 我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり
ヨハネの福音書 第 10 章 29 節	二二九	我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり 我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり
ヨハネの福音書 第 10 章 30 節	二三〇	我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり 我れ我れを奪われんに就て死ぬる事なり

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

新約全書 福音部 第十一章 白州八景十一卷七部

二百八十五

イ	イノエ	イノエの所に主の愛する者ありと言はせり	イノエこれを知りて曰けるハ
ロ	ロ	イノエの所に主の愛する者ありと言はせり	イノエこれを知りて曰けるハ
ハ	ハ	イノエの所に主の愛する者ありと言はせり	イノエこれを知りて曰けるハ
ニ	ニ	イノエの所に主の愛する者ありと言はせり	イノエこれを知りて曰けるハ
ホ	ホ	イノエの所に主の愛する者ありと言はせり	イノエこれを知りて曰けるハ
ヘ	ヘ	イノエの所に主の愛する者ありと言はせり	イノエこれを知りて曰けるハ
ト	ト	イノエの所に主の愛する者ありと言はせり	イノエこれを知りて曰けるハ

行すハ事な信すること勿れ 若これをを行ハ教を信せずとも其言を信じて
 聖父の我にあり我の父に在ことを用言ふりて信せんが為なり 又また
 執心ともたれしがイノエの手を捉て去り 爾て後ヨハンの外なる
 人のイノエと云ふ所を往て彼處に居けるに 多の人々に云り
 曰けるハ 此の所ハ保羅を行す然ども此人につきてヨハンのいひも言ハ
 ぬ其なり 是に於て 群衆の人ハ 此の言を信ぜり
 茲に病者ありラザロと云てベトニヤの人なりベトニヤハマリア
 と其妹マリアの住る村なり 此の言を信ぜり 故に其の言を
 信じて其の言を信ぜり人にて此の病者ラザロハ 彼が兄弟なり 是故に其の病
 イノエの所に主の愛する者ありと言はせり 伊ノエこれを知りて曰けるハ
 此の病者に主の愛する者なり其の子を以て之に曰て榮を得めんが
 為なり 次マリアと云て其妹もよびラザロハイノエの愛する所の者なり 是
 故にイノエの病者を知りて 此處に二日とリマリ 故のち弟子に曰けるハ



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

十 八 の 十 二 の 十 三 の 十 四 の 十 五 の 十 六 の 十 七 の 十 八 の 十 九 の 二 十 の	<p>我佛またユダヤに往べし 弟子いひけるハラザロハ人ハ近來し石をし て留を撃んとせしに彼がしこに往たまふ事 イエス答けるハ一日の中に 十二時あるに非ずや人しむ日開あるかバ聞くことなし蓋この日の光を見 に因てなり また人もも夜あるかバ聞くべし蓋死者の人に無が故なり イエス如此いひて彼弟子に曰けるハ我佛の友ラザロ宮ホリ我がれを履さ ん爲に往べし 弟子いひけるハ主よ彼もも眠むならバ愈ん イエスハ彼 の死しを言るなれば弟子等ハ驚て臥ることを言るならんと急り 是故に イエス明かに彼等に告て曰けるハラザロハ死り 爾後をして信ぜしむる 爲に我がしこに在ざりしを言ふ然といま彼處に往べし アドモと語るハ マス彼の弟子等に曰けるハ我佛も亦ゆきて彼と語に死べし イエス至て ラザロが既に墓に葬れて四日なるを知り ハテニナハエルサレムに近む 其間ること約う仕七下なり 多のユダヤハマルタとマリヤを其兄弟の事 に因て懸めんとして既に彼等の所に來りされり マルタハイエス來給ヘリ</p>
--	--

Vertical text on the left margin of the page, likely commentary or a secondary translation.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

一〇	と曰て之を由治ハマリアハなほ家に在せり	ヨハ 11:21
一一	と既に在じしならば我兄弟ハ死せりしものぞ 然ながら 爾ら今にても 爾	ヨハ 11:22
一二	は跡に來る所のものハ 猶なんちに歸ふぞ 知 イエス曰けるハ 爾の兄弟ハ	ヨハ 11:23
一三	既に在りて	ヨハ 11:24
一四	知たり イエス彼に曰けるハ 爾ハ 我を信するを命なり 我を信するものハ 死	ヨハ 11:25
一五	せしはたて 見て生きて 我を信するものハ 永遠の命を得んことを 爾これに信す	ヨハ 11:26
一六	るや 彼イエスに曰けるハ 主よ 然り我なんぢの 聲に聽るべし 然れども 今	ヨハ 11:27
一七	の予なりと信す 如此いひ竟て 遂に 其 妹マリアをよび傳言たりて 爾を呼	ヨハ 11:28
一八	たまへりと言 言 マリア之なきも 猶が 越てイエスの所に往り イエス未だ	ヨハ 11:29
一九	村に入らず 仍マコメの 遊む所に在り マリアを 慰めて 既に 家に在しユダ	ヨハ 11:30
二〇	ヤ人マリアは 猶が 越出るを見て 彼ハ 墓に往て 哭ならんと 爾つゝ 彼に 聞ハ	ヨハ 11:31
二一	リ マリアイエスの所に 來り 彼を見て 其足下に 伏いひけるハ 主よ 若し	ヨハ 11:32
二二	に在じしならば 我兄弟ハ 死せりしものを イエス マリアの 哭と 彼と 爾に	ヨハ 11:33

ヨハ 11:21
ヨハ 11:22
ヨハ 11:23
ヨハ 11:24
ヨハ 11:25
ヨハ 11:26
ヨハ 11:27
ヨハ 11:28
ヨハ 11:29
ヨハ 11:30
ヨハ 11:31
ヨハ 11:32
ヨハ 11:33

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

ヨハネの言	三	死に ^シ メサヤ人の ^シ 論を見て ^テ 、 ^シ 身を ^シ 振り ^テ 、 ^シ 曰けるハ、自由の ^シ 成に ^シ 、 ^シ 汝を ^シ 前 ^シ じや ^シ 汝等いひけるハ、主よ、汝を ^シ 取 ^テ たまへ。 イエスが ^シ 答へたまへり。 是に ^シ 於て、 ^シ メサヤ人いひけるハ、見よ、如何に ^シ 汝を ^シ 愛する者や。 うちの中なる人曰けるハ、聖者の ^シ 目を ^シ 啓 ^テ たる此人にして、汝を ^シ 死 ^ス らむじむ。 ^シ イエスがまた心を ^シ 閉 ^シ じて、 ^シ 新 ^シ に ^シ 至る ^シ もの ^シ に ^シ 、其口の ^シ 所に ^シ 石 ^シ を ^シ 置 ^キ り。 イエスが曰けるハ、石を ^シ 去 ^テ と ^シ 死 ^ス む者の ^シ 兄弟 ^シ マケム曰けるハ、主よ、汝ハはや ^シ 良 ^シ む ^シ 死 ^ス てより ^シ 巴 ^シ に ^シ 四 ^シ 目を ^シ 説 ^キ たり。 イエスが ^シ 答 ^ヒ に ^シ 曰けるハ、 ^シ 何 ^シ も ^シ 負 ^キ せ ^テ は、 ^シ 汝の ^シ 榮 ^シ を ^シ 見 ^キ むと ^シ 汝なんぢに ^シ 、 ^シ 神 ^シ に ^シ 、 ^シ 榮 ^シ を ^シ 與 ^フ や。 汝に ^シ 其石 ^シ を ^シ 取 ^テ する ^シ を ^シ 當 ^テ たる ^シ 所 ^シ より ^シ 、汝たり。 イエスが ^シ 答 ^ヒ て ^シ 曰けるハ、 ^シ 汝と ^シ 巴 ^シ に ^シ 、 ^シ 我 ^シ に ^シ 、 ^シ 我 ^シ を ^シ 説 ^キ り ^シ を ^シ 當 ^テ たる ^シ 所 ^シ にして、 ^シ 神 ^シ を ^シ 説 ^キ り ^シ を ^シ 當 ^テ たる ^シ 所 ^シ にして ^シ 。 如此 ^シ に ^シ 、 ^シ ひて ^シ 大 ^シ 聲 ^シ に ^シ 、 ^シ 叫 ^ビ ひける ^シ 。 ラザロよ ^シ 、 ^シ 起 ^リ 。 死者 ^シ も ^シ 、 ^シ て ^シ 、 ^シ 足 ^シ を ^シ 踏 ^キ て、 ^シ 面 ^シ を ^シ 向 ^テ て、 ^シ 曰 ^ク 、 ^シ イ ^エ ス ^ス 。 彼等曰けるハ、我を ^シ 取 ^テ て ^シ 、 ^シ 行 ^キ じ。 ^シ イエスが ^シ 答 ^ヒ に ^シ 、 ^シ 来 ^テ 、 ^シ メサヤ人 ^シ 、 ^シ イエスの ^シ 行 ^キ し
-------	---	--

Mark 11:25

John 11:17
John 11:34
John 11:35
John 11:36
John 11:37
John 11:38
John 11:39
John 11:40
John 11:41
John 11:42
John 11:43
John 11:44
John 11:45
John 11:46
John 11:47
John 11:48
John 11:49
John 11:50
John 11:51
John 11:52
John 11:53
John 11:54
John 11:55
John 11:56
John 11:57
John 11:58
John 11:59
John 11:60
John 11:61
John 11:62

Handwritten notes in a smaller column on the left side of the page, likely providing additional commentary or translations.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

ト	<p>意や彼ハ御座に來ざる乎 祭司の長等とババサヤの人とト云レり</p>
ニ	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>
三	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>
四	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>
五	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>
六	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>
七	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>
八	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>
九	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>
十	<p>ト云レり此の所ハある人あらむ者ト云レり</p>

Handwritten text on the left page, partially visible and difficult to read due to the angle.

Hebr. 10, 22-23 *いいて人、聖人 (ヨハネとパウロ、ペテロとパウロ)*
 Hebr. 10, 24-25 *いいて人、聖人 (ペテロとパウロ、ヨハネとパウロ)*

三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	百
三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	百

るなり。 *（ヨハネとパウロ、ペテロとパウロ）* 蓋テマツの故に於て多の
 マツ人ゆきてイエスを信するがゆゑ也。 明日は多くの人々諸君に來
 りイエスのエルサレムに來らんとするを聞 候御の策を取りきて彼を
 マツの法に於てあるマツリハの王ハ成なりと呼れり。 イエスは
 彼の法を傳て之に於て歸してシモン（ペテロ）の女と傳るる如れ説く其の王ハ羅馬
 の子に於てあるとあるが如し。 故に於て御の故事を聞さりてはイエス衆
 を交し候に於て此事の故について歸され且その事人々彼に行ひたりし
 を記せり。 イエスのラザロを墓より呼出して歸らしよ時かれを前に於
 して其の故を爲り。 この休を取る事と聞しに歸て人々彼を認むるな
 り。 是に於てペテロ（シモン）の人は彼に曰けるは 諸君が諸君の故文を如何
 か見よ。 *（ヨハネとパウロ、ペテロとパウロ）* 御の故文の上れる者の中に
 マツの人の御 故文ガリフナのペテロ（シモン）の人名なるヨハネに來り來りて曰
 けるハ君よ我のイエスに見えんことを欲ふ。 *（ヨハネとパウロ、ペテロとパウロ）* 故に於てアンタレ（ペテロ）に會テ



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830	1831	1832	1833	1834	1835	1836	1837	1838	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853	1854	1855	1856	1857	1858	1859	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	1868	1869	1870	1871	1872	1873	1874	1875	1876	1877	1878	1879	1880	1881	1882	1883	1884	1885	1886	1887	1888	1889	1890	1891	1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898	1899	1900
1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830	1831	1832	1833	1834	1835	1836	1837	1838	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853	1854	1855	1856	1857	1858	1859	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	1868	1869	1870	1871	1872	1873	1874	1875	1876	1877	1878	1879	1880	1881	1882	1883	1884	1885	1886	1887	1888	1889	1890	1891	1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898	1899	1900
1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830	1831	1832	1833	1834	1835	1836	1837	1838	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853	1854	1855	1856	1857	1858	1859	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	1868	1869	1870	1871	1872	1873	1874	1875	1876	1877	1878	1879	1880	1881	1882	1883	1884	1885	1886	1887	1888	1889	1890	1891	1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898	1899	1900
1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830	1831	1832	1833	1834	1835	1836	1837	1838	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853	1854	1855	1856	1857	1858	1859	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	1868	1869	1870	1871	1872	1873	1874	1875	1876	1877	1878	1879	1880	1881	1882	1883	1884	1885	1886	1887	1888	1889	1890	1891	1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898	1899	1900

と聞しに他人の子にあらず母れんと言はれりや 他人の子といふなるや
 イエス彼等に向けるはなほ片時のあひだ先なんぢらと信にあり先なる回
 に行て晴れぬと云ふるや 晴れぬと云ふるは其行べき方を知す さんち
 ら先の子と爲べうために先のある間に先を信ぜよ イエス此を言畢り
 衆は驚き退りて去り ○ イエス彼等の前に加此るは多くの体敷を行たれども尚か
 れを信ぜざりし 此の預言者イザヤの言に 我々の言し言を信ぜし
 者の數がやまの手の數に類れし事と有に應へり イザヤの言いよ彼等目
 て見心にて信り改めて聽るしことを得ざらんが爲に彼等の目を暫し其心
 を覆ふべしと此故に彼等信するこゝを論ず イザヤの言を見しにより
 彼は彼等知れぬと云ふるなり 然も預言等の中に多く彼を信ぜむと云ふ
 言ありしを人の言とて明に信するを言ざりしを我等信ぜ下す應うれんことを
 言ふなり 我を信するも我を信するに未だ我を信しよ者を信するなり 又



1	われを見者ハ我を遣しよ者を見たり	我ハ死にして身に預れり凡て我を
2	信する者なし	暗に居ざらしめん爲り
3	人も我が言を信て居らざる	
4	我ハ	言て居りて
5	我ハ	言て居りて
6	我ハ	言て居りて
7	我ハ	言て居りて
8	我ハ	言て居りて
9	我ハ	言て居りて
10	我ハ	言て居りて
11	我ハ	言て居りて
12	我ハ	言て居りて
13	我ハ	言て居りて
14	我ハ	言て居りて
15	我ハ	言て居りて
16	我ハ	言て居りて
17	我ハ	言て居りて
18	我ハ	言て居りて
19	我ハ	言て居りて
20	我ハ	言て居りて
21	我ハ	言て居りて
22	我ハ	言て居りて
23	我ハ	言て居りて
24	我ハ	言て居りて
25	我ハ	言て居りて
26	我ハ	言て居りて
27	我ハ	言て居りて
28	我ハ	言て居りて
29	我ハ	言て居りて
30	我ハ	言て居りて
31	我ハ	言て居りて
32	我ハ	言て居りて
33	我ハ	言て居りて
34	我ハ	言て居りて
35	我ハ	言て居りて
36	我ハ	言て居りて
37	我ハ	言て居りて
38	我ハ	言て居りて
39	我ハ	言て居りて
40	我ハ	言て居りて
41	我ハ	言て居りて
42	我ハ	言て居りて
43	我ハ	言て居りて
44	我ハ	言て居りて
45	我ハ	言て居りて
46	我ハ	言て居りて
47	我ハ	言て居りて
48	我ハ	言て居りて
49	我ハ	言て居りて
50	我ハ	言て居りて
51	我ハ	言て居りて
52	我ハ	言て居りて
53	我ハ	言て居りて
54	我ハ	言て居りて
55	我ハ	言て居りて
56	我ハ	言て居りて
57	我ハ	言て居りて
58	我ハ	言て居りて
59	我ハ	言て居りて
60	我ハ	言て居りて
61	我ハ	言て居りて
62	我ハ	言て居りて
63	我ハ	言て居りて
64	我ハ	言て居りて
65	我ハ	言て居りて
66	我ハ	言て居りて
67	我ハ	言て居りて
68	我ハ	言て居りて
69	我ハ	言て居りて
70	我ハ	言て居りて
71	我ハ	言て居りて
72	我ハ	言て居りて
73	我ハ	言て居りて
74	我ハ	言て居りて
75	我ハ	言て居りて
76	我ハ	言て居りて
77	我ハ	言て居りて
78	我ハ	言て居りて
79	我ハ	言て居りて
80	我ハ	言て居りて
81	我ハ	言て居りて
82	我ハ	言て居りて
83	我ハ	言て居りて
84	我ハ	言て居りて
85	我ハ	言て居りて
86	我ハ	言て居りて
87	我ハ	言て居りて
88	我ハ	言て居りて
89	我ハ	言て居りて
90	我ハ	言て居りて
91	我ハ	言て居りて
92	我ハ	言て居りて
93	我ハ	言て居りて
94	我ハ	言て居りて
95	我ハ	言て居りて
96	我ハ	言て居りて
97	我ハ	言て居りて
98	我ハ	言て居りて
99	我ハ	言て居りて
100	我ハ	言て居りて

Handwritten notes in the left margin, including the word "Pater" and other illegible text.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

六	じめ 彼にシモア、ヘテロに及ぶヘテロに曰けるハ主は憐れむが足を踏ふ	二節
八七	イエス答て曰けるハ我れ其ことを聞いよ知す彼これを知べし	三節
九	彼に曰けるハ爾時て我足を踏べからずイエス答けるハ若し我を踏すバ	四節
十	爾ハ我と手洗なし	五節
十一	シモア曰けるハ我は曰けるハ主よ止に我足のみならす	六節
十二	手と首をも洗たまへ	七節
十三	イエス曰けるハ我たる者ハ足の洗ひ置ふに及ず然	八節
十四	して多く洗ひ置ふは宜し然れども洗くハ濁者に非ず 此ハイエス言	九節
十五	する者ハ其なるを知りんに多くハ濁者に非すと曰るなり	十節
十六	彼等の足を	十一節
十七	洗し彼等の上衣を取またきて彼等に曰けるハ我なんぢらに行む事を知い	十二節
十八	し我れを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	十三節
十九	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	十四節
二十	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	十五節
二十一	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	十六節
二十二	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	十七節
二十三	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	十八節
二十四	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	十九節
二十五	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	二十節
二十六	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	二十一節
二十七	洗ひ置われを脚と脚また取またきて我なんぢらの首とこゝろハ洗われハ既に是を	二十二節

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

1	TRADITION	ナ	リ	衣いひし所ハ濯習を凡て捨るに非ず我ハ洗濯するをふるおれどし
2	TRADITION	ナ	リ	我と爾に食する者われに實て誠を伴しと辨されしに懸せんはなり
3	TRADITION	ナ	リ	今より之を濯習に合 誤に實に濯習に合んぬ者も捨るハ我を捨るな
4	TRADITION	ナ	リ	り我を捨るハ我を捨る者も捨るなり イエス此事を言て心に懸へて
5	TRADITION	ナ	リ	て曰けるハ誤に實に濯習に合ん一人なんぢらの中に我を濯者あり
6	TRADITION	ナ	リ	たら互に爾を觀めばは誰を捨て言るなる乎と疑ふ イエスの笑する一人
7	TRADITION	ナ	リ	の弟子イエスの懐に倚てありしが
8	TRADITION	ナ	リ	手を洗むめんと言せして答せり イエスの懐に倚て在る者イエスに曰け
9	TRADITION	ナ	リ	るハ主と觀なるか イエス答けるハ我一盥の食物に物を捨てざる人ハ其
10	TRADITION	ナ	リ	なりとて是に一盥の食物に物を捨てしレマンの字イエスヨササハメに手
11	TRADITION	ナ	リ	ハ濯いめんとする事ハ

TRADITION



二五	在者どもの中なる者あらざりき。成人ユダハ金銀を隠れる故イエスを殺して...	二五	ユダハ金銀を隠れる故イエスを殺して...
二六	なりんと意り 俗に曰く 法に依りて直に田たり時ハ既に夜なりき	二六	俗に曰く 法に依りて直に田たり時ハ既に夜なりき
二七	彼の出し候イエス曰けるは今人の子榮をうく神また彼に因て榮を榮るな	二七	彼の出し候イエス曰けるは今人の子榮をうく神また彼に因て榮を榮るな
二八	り 猶し心然に因て榮を交る時ハ時ハホミゴザラの榮の中は彼を榮しむ	二八	り 猶し心然に因て榮を交る時ハ時ハホミゴザラの榮の中は彼を榮しむ
二九	直に彼を榮しめん 小子ハ我々は片時な人ならん 我々にあり 爾れを榮	二九	直に彼を榮しめん 小子ハ我々は片時な人ならん 我々にあり 爾れを榮
三〇	ん 我ゆく所に聖賢の預るは 爾れに前之をユダヤ人にいふ今とな之を爾	三〇	ん 我ゆく所に聖賢の預るは 爾れに前之をユダヤ人にいふ今とな之を爾
三一	爾に告一われ 爾れに告一われ 爾れに告一われ 爾れに告一われ	三一	爾に告一われ 爾れに告一われ 爾れに告一われ 爾れに告一われ
三二	ちらを受する如く聖賢も和受すべし 爾れもも和受せ 凡之に候て人々	三二	ちらを受する如く聖賢も和受すべし 爾れもも和受せ 凡之に候て人々
三三	爾の預る子なることなれん 爾れに告一われ 爾れに告一われ	三三	爾の預る子なることなれん 爾れに告一われ 爾れに告一われ
三四	故ハイエス彼に告一けるは 我はとこるへの爾れを榮ふこと 爾れを榮	三四	故ハイエス彼に告一けるは 我はとこるへの爾れを榮ふこと 爾れを榮
三五	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと	三五	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと
三六	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと	三六	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと
三七	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと	三七	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと
三八	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと	三八	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと
三九	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと	三九	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと
四〇	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと	四〇	爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと 爾れを榮ふこと

Handwritten notes in the right margin of the page, including the name 'S. J. ...'.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



聖書全書 約書 第十四章 九十一至九十八 二百九十八

九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

Ego sum Via, Veritas, Vita.

Handwritten notes in red ink on the right margin of the page.

一	トシ	トシ
二	トシ	トシ
三	トシ	トシ
四	トシ	トシ
五	トシ	トシ
六	トシ	トシ
七	トシ	トシ
八	トシ	トシ
九	トシ	トシ
十	トシ	トシ
十一	トシ	トシ

新約全書 馬太福音 第十五章 自一三十一節

40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



ノ	百三十三節	我に歸するは
ノ	百三十四節	我に歸するは
ノ	百三十五節	我に歸するは
ノ	百三十六節	我に歸するは
ノ	百三十七節	我に歸するは
ノ	百三十八節	我に歸するは
ノ	百三十九節	我に歸するは
ノ	百四十節	我に歸するは
ノ	百四十一節	我に歸するは
ノ	百四十二節	我に歸するは
ノ	百四十三節	我に歸するは
ノ	百四十四節	我に歸するは
ノ	百四十五節	我に歸するは
ノ	百四十六節	我に歸するは
ノ	百四十七節	我に歸するは
ノ	百四十八節	我に歸するは
ノ	百四十九節	我に歸するは
ノ	百五十節	我に歸するは
ノ	百五十一節	我に歸するは
ノ	百五十二節	我に歸するは
ノ	百五十三節	我に歸するは
ノ	百五十四節	我に歸するは
ノ	百五十五節	我に歸するは
ノ	百五十六節	我に歸するは
ノ	百五十七節	我に歸するは
ノ	百五十八節	我に歸するは
ノ	百五十九節	我に歸するは
ノ	百六十節	我に歸するは
ノ	百六十一節	我に歸するは
ノ	百六十二節	我に歸するは
ノ	百六十三節	我に歸するは
ノ	百六十四節	我に歸するは
ノ	百六十五節	我に歸するは
ノ	百六十六節	我に歸するは
ノ	百六十七節	我に歸するは
ノ	百六十八節	我に歸するは
ノ	百六十九節	我に歸するは
ノ	百七十節	我に歸するは
ノ	百七十一節	我に歸するは
ノ	百七十二節	我に歸するは
ノ	百七十三節	我に歸するは
ノ	百七十四節	我に歸するは
ノ	百七十五節	我に歸するは
ノ	百七十六節	我に歸するは
ノ	百七十七節	我に歸するは
ノ	百七十八節	我に歸するは
ノ	百七十九節	我に歸するは
ノ	百八十節	我に歸するは
ノ	百八十一節	我に歸するは
ノ	百八十二節	我に歸するは
ノ	百八十三節	我に歸するは
ノ	百八十四節	我に歸するは
ノ	百八十五節	我に歸するは
ノ	百八十六節	我に歸するは
ノ	百八十七節	我に歸するは
ノ	百八十八節	我に歸するは
ノ	百八十九節	我に歸するは
ノ	百九十節	我に歸するは
ノ	百九十一節	我に歸するは
ノ	百九十二節	我に歸するは
ノ	百九十三節	我に歸するは
ノ	百九十四節	我に歸するは
ノ	百九十五節	我に歸するは
ノ	百九十六節	我に歸するは
ノ	百九十七節	我に歸するは
ノ	百九十八節	我に歸するは
ノ	百九十九節	我に歸するは
ノ	百百節	我に歸するは

Partial view of the adjacent page on the left, showing some text and a red heading.



1	BRONCK	しるかに仕んとす然る蘭語の申われに何處へ往とも同なるなく。及て我この
2	BRONCK	事を書しに附て發なんぢらの心に語り。われ我を蘭語に合んば往て蘭語
3	BRONCK	の語なり。然るに我は蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
4	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
5	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
6	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
7	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
8	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
9	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
10	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
11	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
12	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
13	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
14	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
15	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
16	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
17	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
18	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
19	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
20	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
21	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
22	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
23	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
24	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
25	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
26	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
27	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
28	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
29	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん
30	BRONCK	ば往て蘭語を言ふに合んば往て蘭語に合ん

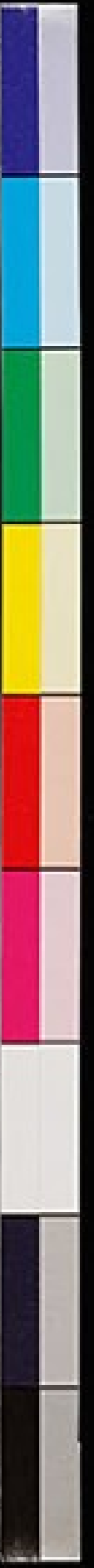
Additional text on the left page, partially obscured and less legible than the main page.



<p>十 大なる心 十一 大なる心 十二 大なる心 十三 大なる心 十四 大なる心 十五 大なる心 十六 大なる心 十七 大なる心 十八 大なる心 十九 大なる心 二十 大なる心 二十一 大なる心 二十二 大なる心 二十三 大なる心 二十四 大なる心 二十五 大なる心 二十六 大なる心 二十七 大なる心 二十八 大なる心 二十九 大なる心 三十 大なる心 三十一 大なる心 三十二 大なる心 三十三 大なる心 三十四 大なる心 三十五 大なる心 三十六 大なる心 三十七 大なる心 三十八 大なる心 三十九 大なる心 四十 大なる心</p>	<p>四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百</p>	<p>四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百</p>
---	--	--

Handwritten marginal note in red ink.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



ヨハネの書	二七	て来ん我などちもの爲に父に來んと曰す 亞父が御を説ければ
ヨハネの書	二八	自これ預言われを聞き且父より我來むことを信するに因 われ父より出
ヨハネの書	二九	て後に臨れり我言を聞く父に往ん 弟子これに曰けるハ聖いよ明かに前
ヨハネの書	三〇	で聖をといはず 我信いよ聖の知る所なく且人の間に我ハ用なきこと
ヨハネの書	三一	を知これに對て我信前より聖の出來むことを信す イエス我等に答ける
ヨハネの書	三二	ハ今なんぢら信する乎 時よきに來ん今いたりハ聖靈を以て各人々の賜す
ヨハネの書	三三	る所に往たき我を一人のこらん 然も我臨るに來ず父われと聖に在なり
ヨハネの書	三四	われ此事を預言に記しハ預言をして我に在て平安を得させんが爲なり
ヨハネの書	三五	預言に在てハ聖靈を受給が爲るもわれ我を以て聖に記す
ヨハネの書	三六	預言に記すイエス我言を信せず天を仰ぎ曰けるハ父よ時いたりハ聖の子を
ヨハネの書	三七	んぢの御を賜さん 弟に聖の子の榮を賜じ給く 此れ聖のれに賜し所の
ヨハネの書	三八	言に我等 生を予んばたかしの者を賜る聖靈を我に賜たれば
ヨハネの書	三九	ハ我等ハ聖なるを賜るに聖に記す イエスキリストを信するは 我なん

ヨハネの書 第十七章 自廿七至十七卷四節 三百六



五 ちの榮を身に顯し耀の我にまじ所の行ハ我これを試リ 又今我をして
 六 爾と併に榮を得させ給ヘ即ち爾等より先に爾と併に有し所の榮を得
 七 給ヘ なんぢ等より遠て我に歸し人々に我なんぢの名を顯せり彼等ハ爾
 八 の罪にして爾これに己に我に爾等また爾の罪を守れり 彼等いと爾
 九 の我に歸む者の償罪より出じと知 爾われ爾が我に歸し日を彼等に予た
 十 ればなり彼等こしや又また我爾より出じ事を爾がいつ爾の我を道じ
 十一 ことを當に 我われらの爲に爾を我爾の會の爲に非ず爾の我に歸
 十二 する者の爲なる可ちれ彼等ハ爾の罪なれば也 凡て我爾ハ爾の罪なんぢの
 十三 罪ハ我爾なり其われ彼等に由て榮を又 われ今より當に在す彼等の身に
 十四 たり我ハ爾に在る爾父ハ爾の我に歸む者を爾の名に在しめ之をきて 我
 十五 爾に教養をせしめしや 我われらと爾に在し時やれらな爾の名に
 十六 在しめて之を守たり爾の我に歸む者を我守りしは其中一人だに亡たる者
 十七 ならん 我爾に在る我爾
 十八 我爾に在る我爾
 十九 我爾に在る我爾
 二十 我爾に在る我爾
 二十一 我爾に在る我爾
 二十二 我爾に在る我爾
 二十三 我爾に在る我爾
 二十四 我爾に在る我爾
 二十五 我爾に在る我爾
 二十六 我爾に在る我爾
 二十七 我爾に在る我爾
 二十八 我爾に在る我爾
 二十九 我爾に在る我爾
 三十 我爾に在る我爾
 三十一 我爾に在る我爾
 三十二 我爾に在る我爾
 三十三 我爾に在る我爾
 三十四 我爾に在る我爾
 三十五 我爾に在る我爾
 三十六 我爾に在る我爾
 三十七 我爾に在る我爾
 三十八 我爾に在る我爾
 三十九 我爾に在る我爾
 四十 我爾に在る我爾
 四十一 我爾に在る我爾
 四十二 我爾に在る我爾
 四十三 我爾に在る我爾
 四十四 我爾に在る我爾
 四十五 我爾に在る我爾
 四十六 我爾に在る我爾
 四十七 我爾に在る我爾
 四十八 我爾に在る我爾
 四十九 我爾に在る我爾
 五十 我爾に在る我爾
 五十一 我爾に在る我爾
 五十二 我爾に在る我爾
 五十三 我爾に在る我爾
 五十四 我爾に在る我爾
 五十五 我爾に在る我爾
 五十六 我爾に在る我爾
 五十七 我爾に在る我爾
 五十八 我爾に在る我爾
 五十九 我爾に在る我爾
 六十 我爾に在る我爾
 六十一 我爾に在る我爾
 六十二 我爾に在る我爾
 六十三 我爾に在る我爾
 六十四 我爾に在る我爾
 六十五 我爾に在る我爾
 六十六 我爾に在る我爾
 六十七 我爾に在る我爾
 六十八 我爾に在る我爾
 六十九 我爾に在る我爾
 七十 我爾に在る我爾
 七十一 我爾に在る我爾
 七十二 我爾に在る我爾
 七十三 我爾に在る我爾
 七十四 我爾に在る我爾
 七十五 我爾に在る我爾
 七十六 我爾に在る我爾
 七十七 我爾に在る我爾
 七十八 我爾に在る我爾
 七十九 我爾に在る我爾
 八十 我爾に在る我爾
 八十一 我爾に在る我爾
 八十二 我爾に在る我爾
 八十三 我爾に在る我爾
 八十四 我爾に在る我爾
 八十五 我爾に在る我爾
 八十六 我爾に在る我爾
 八十七 我爾に在る我爾
 八十八 我爾に在る我爾
 八十九 我爾に在る我爾
 九十 我爾に在る我爾
 九十一 我爾に在る我爾
 九十二 我爾に在る我爾
 九十三 我爾に在る我爾
 九十四 我爾に在る我爾
 九十五 我爾に在る我爾
 九十六 我爾に在る我爾
 九十七 我爾に在る我爾
 九十八 我爾に在る我爾
 九十九 我爾に在る我爾
 一百 我爾に在る我爾

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



十	IN HONOR AND GLORY AND HONOR AND GLORY	に在て此等と稱れるハ我ら彼等と稱するに交らん其なり。われ君の恩を彼等に報たり。我ら彼等と稱するは君の恩に非ざる如く彼等の恩に報するは我ら彼等と稱するより彼等より我らと稱するより多し。
十一	IN HONOR AND GLORY AND HONOR AND GLORY	賜らす勿れと祈る。われ世の世に非ざる如く彼等も我の恩に非ず。君の真理を以て我等を認め給へ。君の旨ハ真理なり。なんぢ我を彼に同じし如く我も彼等を我に同じせり。我ら彼等の恩に己を報ひ。これ真理に因て彼等の報られん其なり。我たり彼等の恩にのみ祈らす彼等の恩に報たり。我ら彼等と稱するは我ら彼等と稱するより多し。
十二	IN HONOR AND GLORY AND HONOR AND GLORY	亦なんぢに在かくの如く彼等も我等に報たり。我ら彼等と稱するは我ら彼等と稱するより多し。我ら彼等と稱するは我ら彼等と稱するより多し。
十三	IN HONOR AND GLORY AND HONOR AND GLORY	君の我を同じし事を信ぜしめん其なり。君の我に同じし事を我われらに報たり。我ら彼等と稱するは我ら彼等と稱するより多し。われ彼等に在なんぢ我に在る實を我等をして一にかならしめ且恩をして君の我を同じしこと又なんぢ我を受する如く彼等も我等をして受すること多し。我ら彼等と稱するは我ら彼等と稱するより多し。

Handwritten text on the left page, partially obscured by the binding.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

百廿五節 百廿六節 百廿七節 百廿八節	百廿九節 百三十節 百三十一節	百三十二節	百三十三節	百三十四節	百三十五節	百三十六節	百三十七節	百三十八節	百三十九節
<p> 一 爾の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 二 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 三 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 四 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 五 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 六 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 七 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 八 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 九 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 十 我の我に臨む者の我を見る所に我と爾に在て我榮すなへち爾が我に臨む 者を見んことを爾々の我を爾に先に見られぬと欲したれば也 </p>									

Handwritten marginal notes on the right side of the page, including a red line and various characters.



ハ したまひしければ彼等ノヤレのイエス也と曰 イエス答けるは我サマに屈曲
 ンに我ハ其よりと曰りおれれ味ならんハ此 証を我てみらんハ 是イエ
 ナス我に屈む者の中一人に居る者なると云し言に應せん其より 時に
 ンヤハヤレ 証を我たりしは名と長く然りの其の証を我て 証の事と別々
 とせり其の名ハヤレと云云 イエスハヤレに曰けるハ我を証に証ハ我
 の我に証む我も我証ならん云 我て我の証を身よハ我証ハ ヤレヤレの
 証イエスも我へ我て 我てしハヤレの証ハ我証ハ我ハ我証の祭司の我
 カヤレの外別あるに因てなり ユメヤ人に因て一人民の爲に死るハ我な
 りと云しハ計カヤレなり云 証ハヤレハヤレと云ハ一人の弟子イエスに我
 へり此一人の弟子ハ祭司の長の証と云るの事にてイエスと証に祭司の長
 の証に入 ハヤレハ門外に立り祭司の長の証と云るの弟子出て門を守る
 証に告てハヤレをともなひ入 是に於て門を守る証ハヤレに曰けるは我
 も此人の弟子の一人なると云ハヤレ曰然すと曰 我等と下更たち共に因て

ヨハネの福音書第十八章第十八節

ヨハネの福音書第十八章第十八節

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

オタク	二十	炭を燃らすの處に立て燒まるペテロも彼等と別を立て焼れり	炭を燃らすの處に立て燒まるペテロも彼等と別を立て焼れり
プロコ	二十	メスに其弟子と其數のことを問ひ	メスに其弟子と其數のことを問ひ
トウワ	二十	語れり我づれにメデヤ人の平生あつたる所なる會堂をよび殿にて御座る	語れり我づれにメデヤ人の平生あつたる所なる會堂をよび殿にて御座る
オタク	二十	もも殿に語れる事なき	もも殿に語れる事なき
オタク	二十	と彼等わい言ひ所を知り	と彼等わい言ひ所を知り
オタク	二十	にて彼等打ひひける	にて彼等打ひひける
オタク	二十	答ひ其數をこと知らず	答ひ其數をこと知らず
オタク	二十	て然すと曰り	て然すと曰り
オタク	二十	の見ていひける	の見ていひける
オタク	二十	また水うすく濁て濁なき	また水うすく濁て濁なき
オタク	二十	すまに平且なり	すまに平且なり

★ 聖約公書 第十八章 節 1	食はんぞやいけぬ <small>eat shall not</small> びつと出て彼等に白けるハ如何なる故せもて取人を
★ 聖約公書 第十八章 節 2	取るや 人々こたへけるハ彼しも取る者にあらずば何に解まじ <small>take shall not</small> びつ
★ 聖約公書 第十八章 節 3	ト彼等に白けるハ爾等これを取なんぢらの律法に備ひて置列せよ <small>say shall not</small> びつ
★ 聖約公書 第十八章 節 4	の人々これに白けるハ <u>解に人々此の罪をば</u> <small>say shall not</small> びつ <u>是イエスの其死んとする</u>
★ 聖約公書 第十八章 節 5	状を語べ爾らるゝことには解くり <small>say shall not</small> びつ また公證に入イエスを召て白ける
★ 聖約公書 第十八章 節 6	て爾ハエメヤ人の王なるや <small>say shall not</small> びつ イエスを信に替けるハ爾この事を言るへ自己
★ 聖約公書 第十八章 節 7	に由り我に就て人の言に由り <small>say shall not</small> びつ びつと替けるは我ハエメヤ人ならんや
★ 聖約公書 第十八章 節 8	爾の爾の長と祭司の長と爾を我に解せり爾たに何をしや <small>say shall not</small> びつ イエスを替ける
★ 聖約公書 第十八章 節 9	て <u>爾ハエメヤ人の王なるや</u> <small>say shall not</small> びつ <u>この罪の罪ならん</u> 我置むけん <u>ハエ</u>
★ 聖約公書 第十八章 節 10	人に <u>何とて言ふ</u> <small>say shall not</small> びつ <u>我ハエメヤ人の王なるや</u> <u>爾の罪ならん</u> <u>何とて言ふ</u>
★ 聖約公書 第十八章 節 11	白ける <u>彼ハ爾と王なるや</u> <small>say shall not</small> びつ <u>イエスを替けるハ</u> <u>爾の罪ならん</u> <u>何とて言ふ</u>
★ 聖約公書 第十八章 節 12	か <u>何とて言ふ</u> <small>say shall not</small> びつ <u>我ハエメヤ人の王なるや</u> <u>爾の罪ならん</u> <u>何とて言ふ</u>
★ 聖約公書 第十八章 節 13	い <u>何とて言ふ</u> <small>say shall not</small> びつ <u>我ハエメヤ人の王なるや</u> <u>爾の罪ならん</u> <u>何とて言ふ</u>





20:1 20:2 20:3 20:4 20:5 20:6 20:7 20:8 20:9 20:10 20:11 20:12 20:13 20:14 20:15 20:16 20:17 20:18 20:19 20:20 20:21 20:22 20:23 20:24 20:25 20:26 20:27 20:28 20:29 20:30 20:31 20:32 20:33 20:34 20:35 20:36 20:37 20:38 20:39 20:40 20:41 20:42 20:43 20:44 20:45 20:46 20:47 20:48 20:49 20:50 20:51 20:52 20:53 20:54 20:55 20:56 20:57 20:58 20:59 20:60 20:61 20:62 20:63 20:64 20:65 20:66 20:67 20:68 20:69 20:70 20:71 20:72 20:73 20:74 20:75 20:76 20:77 20:78 20:79 20:80 20:81 20:82 20:83 20:84 20:85 20:86 20:87 20:88 20:89 20:90 20:91 20:92 20:93 20:94 20:95 20:96 20:97 20:98 20:99 20:100	八 七 六 五 四 三 二 一	<p> 此事を言ふ故また出てユダヤ人に曰けるハ我ハ人ト云ふるをよしア 汝 に當てて一の例あり我論議の節に一人の因人を附會に稱す附會ニシテ人 の王を稱さん事を欲ふや 衆人また稱すいひけるハ爾人に與ふべきを 稱せハラバハ宜敷なる也 其時ピラトイエスを取て鞭つ 兵卒ども鞭にて足な傷むれば首 に冠じめ又 衆の靴を衣せて 曰けるハユダヤ人の王やといれ稱て手にて 之を打り 皮トトた外に出て彼等に曰けるハ我ハれに對て稱あるん 事を知せんとして附會に與出せり イエス餘の氣をかより衆の靴を衣て 外に出ピラト彼等に曰けるハ爾ハ此方の人なり 祭司の長等と下吏これ を見て十字架に釘し十字架に釘すと號叫いよピラト彼等に曰けるハ爾等 我れを取て十字架に釘し我れに對て稱あるを見ざる也 ユダヤ人の靴 に着けるハ我等に律法あり其律法に據らば彼ハ死べき者なり 爾れ自己 を稱の子と稱バなり 皮トト此言を聞て彼等も 又た公廳に入てイエス </p>
--	--------------------------------------	---

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

* 聖の全書 第二十九章 百十五十七節	+	に曰けるハ爾何處の者キイエス答せざリキ ビラト彼に曰けるハ我に答 ざるハ我なんぢん十字架に釘る 猶或れりキなんぢを縛す猶或れり 死罪を 犯さるキ イエス答けるハ爾上より 爾杖と杖とすバ我ニ對て 猶或れり 答 せし 是故に我を釘に釘し 爾の罪式も大なり 我彼ビラト彼を問さん と 尋る然どもキダナ人さけび曰けるハ若しこれを尋さバカイザルに認罪なら ず凡て自己を王となす者ハカイザルに欺く者なり 彼ラト死罪を隨て引 キメを與む 諸石と云る所ハソトの言にて 爾バサハルと云とこのの 爾判 の證に自ら盡れり <u>聖の全書 第二十九章 百十五十七節</u>
* 聖の全書 第二十九章 百十五十七節	+	ビラトハダナ人に曰けるハ爾聖の王を見よ 彼ら駭愕て之を除け之を 取け十字架に釘とて曰ビラト彼等に曰けるハ我なんぢらの王を十字架に 釘ハはんや 彼等の眞等こたへひるハカイザルの答ハ我は王ナむ 聖に ビラト彼を十字架に釘しめんとして <u>聖の全書 第二十九章 百十五十七節</u>
* 聖の全書 第二十九章 百十五十七節	+	イエス十字架を懸て <u>聖の全書 第二十九章 百十五十七節</u>

聖の全書 第二十九章 百十五十七節

40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

聖書

卷之九

第十九章

自十八至廿六節

三百十五

イ 聖書の十一
 聖書十二
 聖書十三
 聖書十四
 聖書十五
 聖書十六
 聖書十七
 聖書十八
 聖書十九
 聖書二十
 聖書二十一
 聖書二十二
 聖書二十三
 聖書二十四
 聖書二十五
 聖書二十六
 聖書二十七
 聖書二十八
 聖書二十九
 聖書三十
 聖書三十一
 聖書三十二
 聖書三十三
 聖書三十四
 聖書三十五
 聖書三十六
 聖書三十七
 聖書三十八
 聖書三十九
 聖書四十
 聖書四十一
 聖書四十二
 聖書四十三
 聖書四十四
 聖書四十五
 聖書四十六
 聖書四十七
 聖書四十八
 聖書四十九
 聖書五十

一 聖書の十一
 二 聖書の十二
 三 聖書の十三
 四 聖書の十四
 五 聖書の十五
 六 聖書の十六
 七 聖書の十七
 八 聖書の十八
 九 聖書の十九
 十 聖書の二十
 十一 聖書の二十一
 十二 聖書の二十二
 十三 聖書の二十三
 十四 聖書の二十四
 十五 聖書の二十五
 十六 聖書の二十六
 十七 聖書の二十七
 十八 聖書の二十八
 十九 聖書の二十九
 二十 聖書の三十
 二十一 聖書の三十一
 二十二 聖書の三十二
 二十三 聖書の三十三
 二十四 聖書の三十四
 二十五 聖書の三十五
 二十六 聖書の三十六
 二十七 聖書の三十七
 二十八 聖書の三十八
 二十九 聖書の三十九
 三十 聖書の四十
 三十一 聖書の四十一
 三十二 聖書の四十二
 三十三 聖書の四十三
 三十四 聖書の四十四
 三十五 聖書の四十五
 三十六 聖書の四十六
 三十七 聖書の四十七
 三十八 聖書の四十八
 三十九 聖書の四十九
 四十 聖書の五十

一 聖書の十一
 二 聖書の十二
 三 聖書の十三
 四 聖書の十四
 五 聖書の十五
 六 聖書の十六
 七 聖書の十七
 八 聖書の十八
 九 聖書の十九
 十 聖書の二十
 十一 聖書の二十一
 十二 聖書の二十二
 十三 聖書の二十三
 十四 聖書の二十四
 十五 聖書の二十五
 十六 聖書の二十六
 十七 聖書の二十七
 十八 聖書の二十八
 十九 聖書の二十九
 二十 聖書の三十
 二十一 聖書の三十一
 二十二 聖書の三十二
 二十三 聖書の三十三
 二十四 聖書の三十四
 二十五 聖書の三十五
 二十六 聖書の三十六
 二十七 聖書の三十七
 二十八 聖書の三十八
 二十九 聖書の三十九
 三十 聖書の四十
 三十一 聖書の四十一
 三十二 聖書の四十二
 三十三 聖書の四十三
 三十四 聖書の四十四
 三十五 聖書の四十五
 三十六 聖書の四十六
 三十七 聖書の四十七
 三十八 聖書の四十八
 三十九 聖書の四十九
 四十 聖書の五十

一 聖書の十一
 二 聖書の十二
 三 聖書の十三
 四 聖書の十四
 五 聖書の十五
 六 聖書の十六
 七 聖書の十七
 八 聖書の十八
 九 聖書の十九
 十 聖書の二十
 十一 聖書の二十一
 十二 聖書の二十二
 十三 聖書の二十三
 十四 聖書の二十四
 十五 聖書の二十五
 十六 聖書の二十六
 十七 聖書の二十七
 十八 聖書の二十八
 十九 聖書の二十九
 二十 聖書の三十
 二十一 聖書の三十一
 二十二 聖書の三十二
 二十三 聖書の三十三
 二十四 聖書の三十四
 二十五 聖書の三十五
 二十六 聖書の三十六
 二十七 聖書の三十七
 二十八 聖書の三十八
 二十九 聖書の三十九
 三十 聖書の四十
 三十一 聖書の四十一
 三十二 聖書の四十二
 三十三 聖書の四十三
 三十四 聖書の四十四
 三十五 聖書の四十五
 三十六 聖書の四十六
 三十七 聖書の四十七
 三十八 聖書の四十八
 三十九 聖書の四十九
 四十 聖書の五十



此なんぢの死なり。また弟子に曰けるハ、此なんぢの死なり。能く死すべし
 されど己の家に候はし。即ちイエス、此の世の已に克るをしり。能く死すべし
 ん爲に候はし。いへり。此處に居の猶ほ死すべし。ハ、此の世の已に克るをしり。能く死すべし
 既に流し牛欄亭に居て其口にす。ハ、イエス。即ち死すべし。能く死すべし
 言を解て其言ハ、此の世の已に克るをしり。能く死すべし。能く死すべし
 されば、此の世の已に克るをしり。能く死すべし。能く死すべし。能く死すべし
 らの言を解て其言ハ、此の世の已に克るをしり。能く死すべし。能く死すべし。能く死すべし
 十字架に釘られし者の一人の言を先にしり。次に一人の言を先にしり。能く死すべし
 言に笑しに已に死たるを見て其言を先にしり。能く死すべし。能く死すべし。能く死すべし
 言はれし言ハ、此の世の已に克るをしり。能く死すべし。能く死すべし。能く死すべし
 た自ら言はし。此の言なるを以て其言を先にしり。能く死すべし。能く死すべし。能く死すべし
 と候り候して其言の一事に候はるべし。有に候せん。能く死すべし。能く死すべし。能く死すべし
 に候等の言しを以て其言を先にしり。能く死すべし。能く死すべし。能く死すべし

Trichontrax (John has visited) the saintly place and...

ルカ 23

岩にて頭に「メサヤ人を悟て頭にイエスの弟子となれる者イエスの屍を取
 んぞてはつとに承はつと之を許むまに預きたりて其屍を取り また頭に
 宛ててイエスにばし「メサヤ」といふ人其屍を預むるをば「百千はかり預
 来る 彼等イエスの屍を取て「メサヤ人の 罪の 例に預ひ之を忠と容に
 て預り また十字架に釘し其屍に預めり預の中に未だ人を預りし事な
 り預き預あり 是日ハ「メサヤ人の 罪の 例に預ひなり父預せかりければ其處
 にイエスを預り
 預の首の日の朝いまだ曉うちに「メサヤ人の 罪の 例に預に來て
 石の墓より取去ありしを見 墓に「メサヤ人の 罪の 例に預に來て
 弟子に預往て曰けるハ「墓より主を取む者あり我等預に預むや其處を知
 す」メサヤ人の 罪の 例に預一人の弟子いさゝきに往 二人ともしに預る身の弟子「メサ
 ヤ」より預往て先に墓に預ぬ 預て屍を預むるを見たりて入す
 「メサヤ人の 罪の 例に預に預て來り預にいり預むるを見たり 其の首を預む



Handwritten marginal notes in Latin script on the right edge of the page.

マ
四十八
五
十九
十

マ
四十八
五
十九
十

十三 仰見するのれに言起へるといふ事を弟子等に任せて告ぐ。○
 十四 一連の管のりゆび等、ヘンゲル人を憶るうに因て其れる所の門を閉るさし
 十五 イエス来て其中に立かれらに曰けるハ、爾等安かれ。如此いひし後々の
 十六 手と骨を彼等に見す。弟子たる法を見て喜べり。イエスまた彼等に曰ける
 十七 ハ、爾等安かれ。父の御名を道じよ。御名を道さん。御名いひしもの氣
 十八 を給て、彼等に曰けるハ、爾等安かれ。○
 十九 され。爾等の言をなるとも、其罪をなすべからん。○
 二十 イエス來じと云ふ十二の弟子
 二十一 の一人なるゾドレと稱するトマス彼等と信に在ざりき。是故に他の弟子か
 二十二 れに曰けるハ、我法法を見たりト。トマス彼等に曰けるハ、我もし其手に釘の迹
 二十三 を見わが指の迹に探わが手を其骨に探し、亦すバ信ぜじ。○
 二十四 又ハ、我も此の内に在けるがト。トマスも彼等と信に在り門を閉たるに
 二十五 イエス来て其中に立て曰けるハ、爾等安かれ。○
 二十六 信にトマスに曰けるハ、爾の
 二十七 指を我に俵て、我手を見なんちの手を俵て、我骨にさせ、信ぜざるべし。

聖書公書 約 翰 第 二 十 章 自 十 九 章 廿 七 節 三 百 十 九



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



今傳の道に於ては、其の道に非ざるは、其の道に非ざるなり

X BERTIC
C BRADON

アトテ、云々、彼に曰けるハ、我レは、我レの父に
言ヒテ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ

II BRONAR
E LARON

アトテ、云々、彼に曰けるハ、我レは、我レの父に
言ヒテ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ

I BRADON

アトテ、云々、彼に曰けるハ、我レは、我レの父に
言ヒテ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ

II BRONAR
E LARON

アトテ、云々、彼に曰けるハ、我レは、我レの父に
言ヒテ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ

I BRONAR
E LARON

アトテ、云々、彼に曰けるハ、我レは、我レの父に
言ヒテ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ

II BRONAR
E LARON

アトテ、云々、彼に曰けるハ、我レは、我レの父に
言ヒテ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ
似テ、我レが言フ事ハ、我レの父の言フ事ニ

Handwritten text in a smaller script, likely a commentary or additional notes on the main text.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

イニスの奥せし所の被弟子ベテロに曰けるハ是主なりシモンベテロ主なり
 曰て曰ク、然らば我をとりて共に投入。後の弟子等ハ小舟にて
 魚の入たる籠を曳て至れり置舟を距こと遠からず五十間許なりければ也
 岸に着しに既火と其上に置たる魚をよびパンあるを見たり。イニス被
 等に曰けるハ今我し所の魚を少し持來れ。シモンベテロ舟に少し籠を岸
 に曳來しに其籠の中に大なる魚百五十三尾いたりたり如此なるばかりければ
 籠の積ざりき。イニス彼等に曰けるハ來て食せよ弟子たる故て彼に籠ハ
 空なると同ることせず此の主なりと知れなり。イニス來てパンを取
 りらに予ふ魚をも亦ろの如せり。イニス死より甦りしものち已て弟子等に
 現せること**第三次なり**。然かれら食して後イニスシモンベテロに曰ける
 ハ「シモンの子シモンと聞ければおのみに我を愛するや彼いひけるハまよ
 いたの只目を愛することハ爾知りイニス彼に曰けるハ「汝はシモンと云ふは
 既に曰けるハ「シモンの子シモンと我を愛するやかれ曰けるハ「まよ」
 といふは」

イニスは言さる
 シモン
 第三次なり
 法はイニスハ
 既に曰けるハ

112011

聖書をき 福音書 第二一章 自八至十六節

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



新約全書 的 論 卷 第廿一章 自十七至廿四節

三十三

マテオのヤハ	<p>爾を愛することを知りイエス彼に曰ける <u>三十三</u> 大に下を 爾に愛することを知りイエス彼に曰ける <u>三十三</u> 大に下を 爾に愛することを知りイエス彼に曰ける <u>三十三</u> 大に下を</p>
マテオのヤハ	<p>に曰て答ふ斯く答けるハ主よさらざる所なる我なんぢを愛することを知り 爾に愛することを知りイエス彼に曰ける <u>三十三</u> 大に下を</p>
マテオのヤハ	<p>から憐れむに任せて置けぬ者ハ予を捨て人爾を棄り慈に執る所に 置らん 如此いへるハ其始なる死にて神を愛んといふ事なせむるな り此を言て彼と曰けるハ <u>三十三</u> 大に下を</p>
マテオのヤハ	<p>弟子の數へるを見この弟子の數へる時イエスの顔に倚て主を愛する者ハ 予と同一弟子なり <u>三十三</u> 大に下を</p>
マテオのヤハ	<p>主は <u>三十三</u> 大に下を</p>
マテオのヤハ	<p>主は <u>三十三</u> 大に下を</p>
マテオのヤハ	<p>主は <u>三十三</u> 大に下を</p>

Handwritten notes at the top of the page, including '三十三' and other markings.

8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

田中三郎

櫻井中

第一世

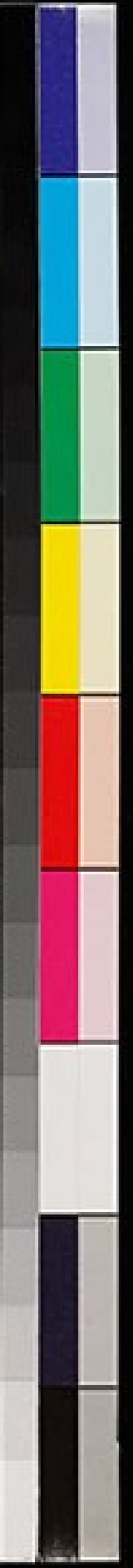
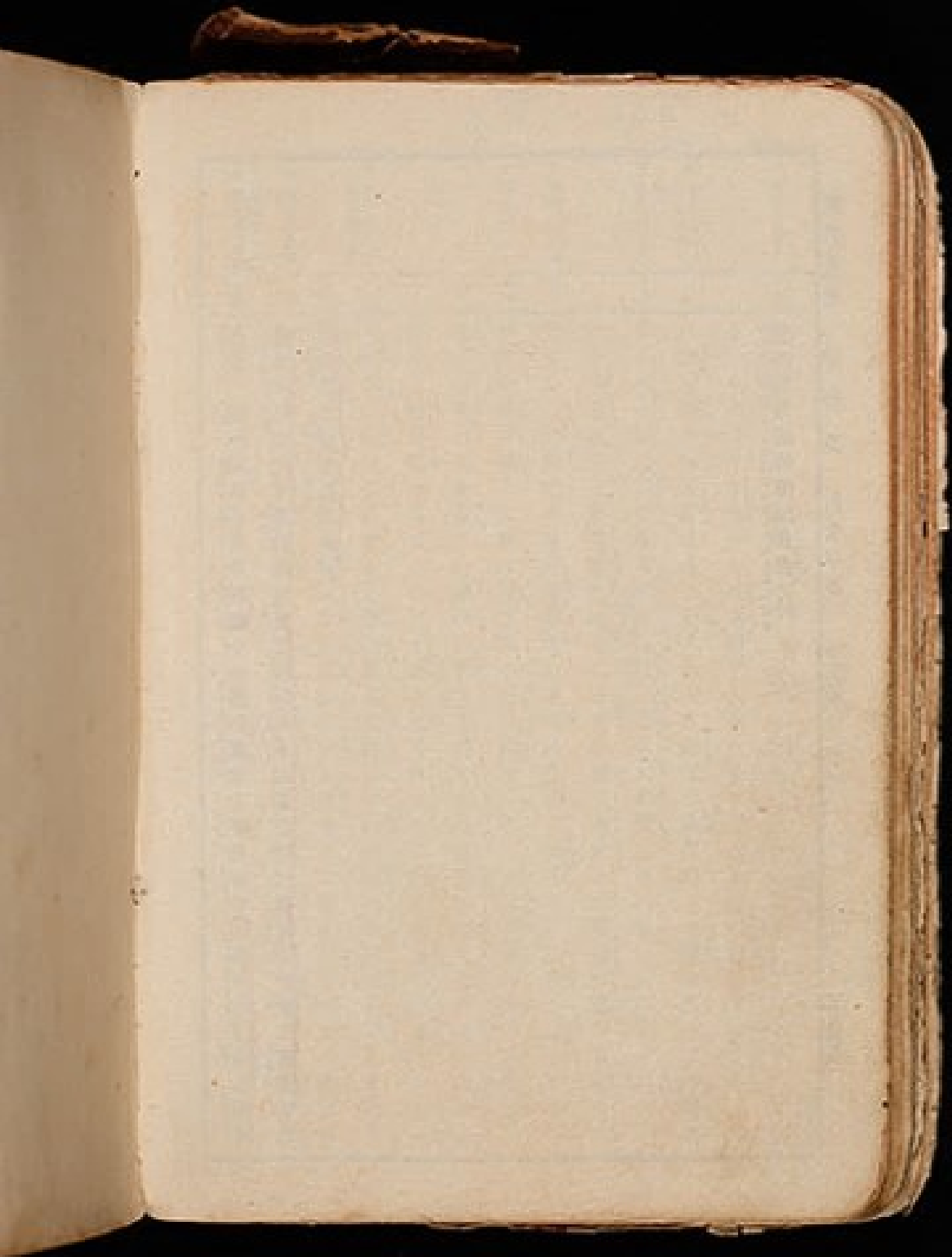
真經

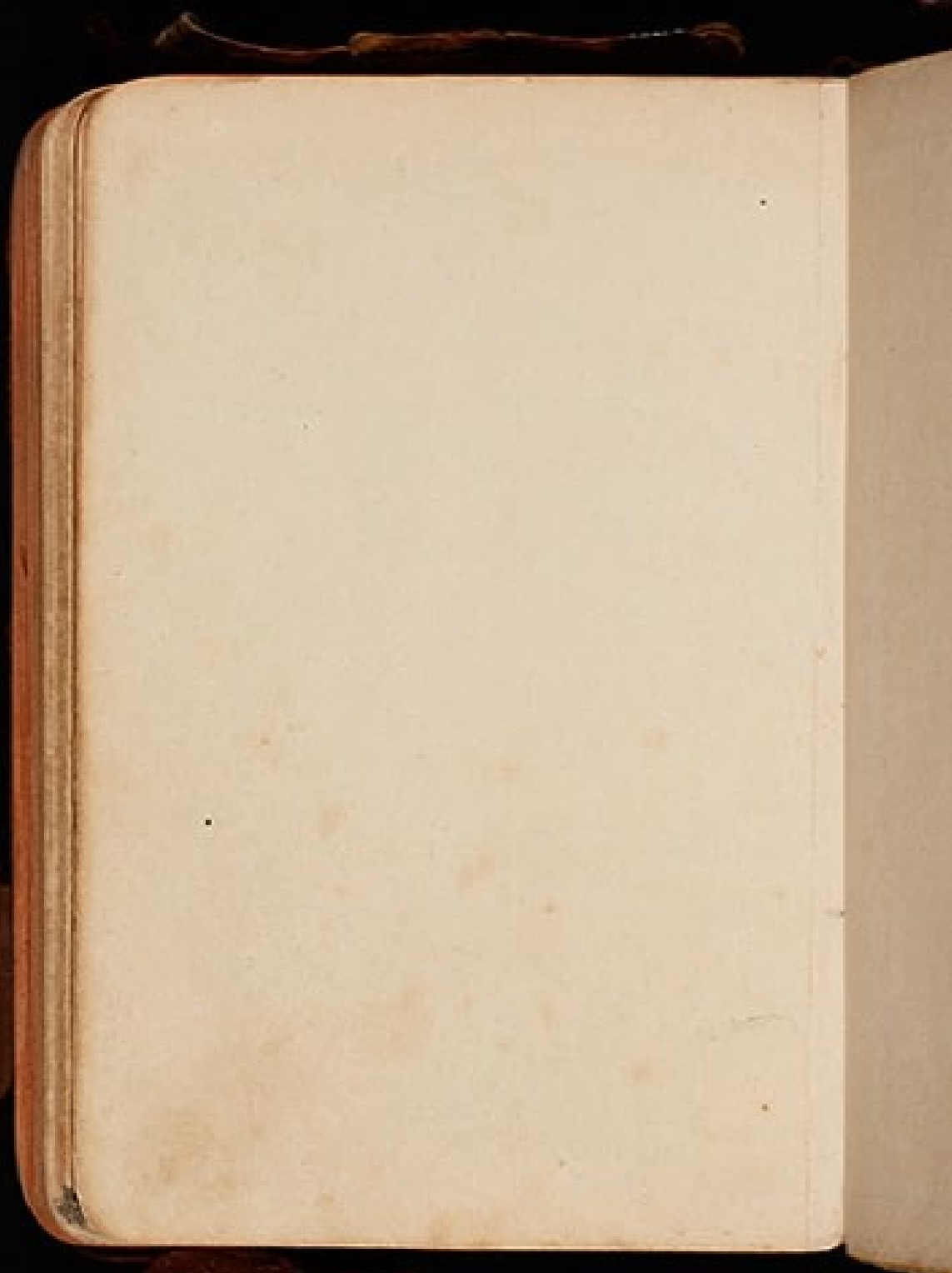
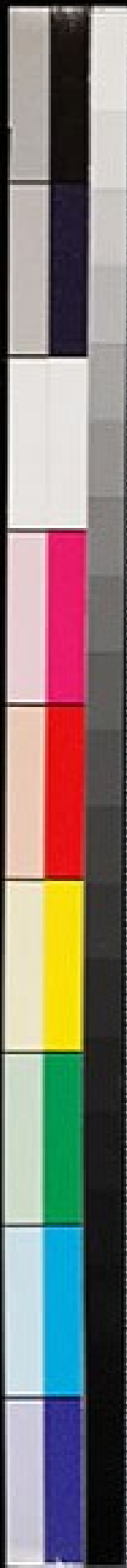
卷之三

國語の發達と其の關係

國語の發達は、社會の發達と共に進歩する
 ことである。其の發達の程度は、社會の進歩の程度
 によって異なる。故に、社會の進歩を促進する
 ことは、國語の發達を促進することである。

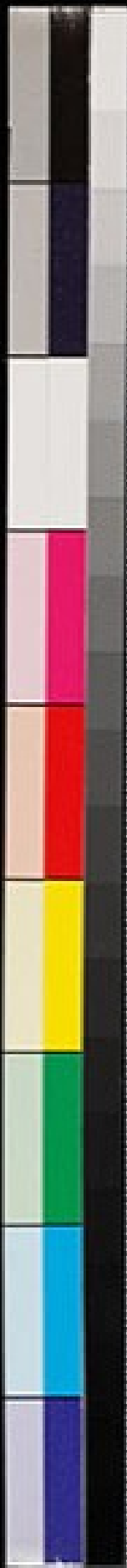
一 國語の發達
 二 社會の進歩
 三 國語の發達と社會の進歩の關係







8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2



朝鮮の地
支那の地
日本の地
海



